

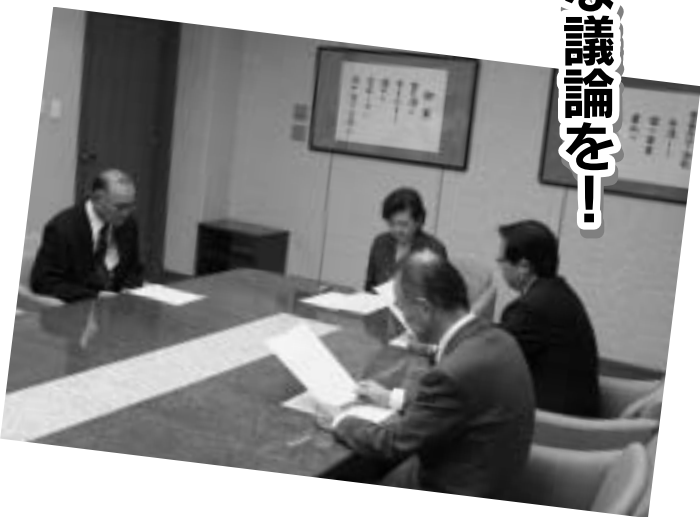
TOPICS

高校再編に伴うこれまでの主な経過

- ◇7月11日 県教育委員会において、『魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けて～滋賀県立高等学校再編基本計画（原案）』と『同～実施計画（原案）』を突然公表
- ◇7月12日 滋賀県議会文教警察常任委員会において、県教育委員会が基本計画と実施計画を提示
- ◇7月14日 県知事および県教育長に対して長浜市長が白紙撤回を申し入れ
- ◇7月25日 県知事および県教育長に対して「公開質問状」を彦根市長とともに提出
- ◇8月5日 公開質問状に対する回答を彦根市長とともに不受理とし、回答の見直しを要請
- ◇8月24日 長浜市PTA連絡協議会と市の共催により、滋賀県教育委員会を招き、市内の小中学校のPTA役員を対象とした説明会を開催
- ◇9月1日 長浜市議会が高校再編計画原案の白紙撤回を求める意見書を全会一致で可決し、県知事、県教育長、県議会議長へ提出
- ◇9月12日 長浜市連合自治会から県知事、県教育長および県議会議長に対して要望書を提出
- ◇9月20日 長浜市PTA連絡協議会から県知事、県教育長および県議会議長に対して要望書を提出
- ◇10月12日 滋賀県議会は県立高校再編計画の慎重な検討を求める決議案を全会一致で可決

県知事および県教育長に申し入れ

今、中学3年生は、進路を決定する最も重要な時期に差しかかっています。このままでは生徒や保護者、教育現場に混乱が生じ、今後において大変不幸な事態を招く恐れがあることから、10月19日、長浜市長と彦根市長連名で県知事および県教育長に高校再編にかかる緊急申し入れを行いました。その席でお二人はできるだけ早く方向性を示したいと回答されました。申し入れの内容は下記のとおりです。



高校再編

一旦立ち止まり、慎重な議論を！

県知事および

県教育長に申し入れ

申し入れ内容

現状に至って、最も配慮しなければならぬ現中学3年生やその保護者のもとより、教育現場では、大きな混乱が生じ、教育の主体たる子どもたちにとって大変不幸な事態を招いている。

「魅力と活力に満ちた県立高等学校の創生に向けた検討が必要である」との基本的な認識は持っている。本県においては、気候や人口、公共交通網など様々な点で、地域によってその状況が異なることを踏まえ、地元自治体・教育委員会や関係者等の意見を反映することが重要と考えている。

計画原案公表後の様々な意見や滋賀県議会による決議など取り巻く状況の変化を踏まえ、次のとおり申し入れを行う。ぜひとも滋賀の未来を担う子どもたちのために、早急にご判断をお願いする。

1. 地域の多層的、多元的な意見を反映するため、まずは一旦、立ち止まり、慎重な検討を行う期間を設けることを求める。なお、現在の中学3年生に対する進路指導については、実施年度を平成26年度とする計画原案を想定せずになされるよう県内中学校に速やかに助言することを求める。
2. 滋賀県教育委員会において、あらためて検討を行う際には、高校再編に係る政策決定プロセスの中に、地域の意見を反映し、これを担保できる仕組みづくりを行うことを求める。その中で、両市は、県との間に信頼関係を結びつつ、国内の他地域に誇れるモデルケースとなるべく、真に魅力と活力ある未来の高校教育の創生に向け積極的な提言を行ってまいりたいと考えている。

TOPICS

この道ひとすじ

- ◆奥田 重之（郷野町）
- 原 令子（南高田町）
- 福永 紀美子（新庄馬場町）

感謝状

- ◆益梅 140鉢を寄付
- 倉田 雅彦（京都市城陽市）

- ◆慶雲館整備及び広報費100万円を寄付
- 株式会社 山久（八幡中山町）



この道ひとすじ



網織細職人
奥田 重之さん（郷野町）



美容師
原 令子さん（南高田町）



永年和裁技術指導者
福永 紀美子さん
（新庄馬場町）

永年織物技術や滋賀県の伝統的工芸品である網織細を継承しつつ改良を加え、後継者の育成や指導など次代に引き継ぐ活動をされています。

網織細は浅井独自の伝統です。生糸は字のごとく生き物といわれ、天候や織機の状態によって出来栄が異なります。家業を継いで39年になりますが、今日まで改良に改良を重ね、開発に取り組んできた勉強と努力の日々でした。これからも伝統を引き継ぎつつ、更なる技術を磨き、着物にもっと目を向けてもらえるよう日々努力して素晴らしい白生地を作っていきたいと思えます。

自営のかたわら、美容ボランティアや長浜北星高校で12年間にわたる職業教育など美容界の発展に貢献するとともに、後継者、若者の育成に尽力されています。

私が仕事をしたいという原動力になっているのは「認められたい、お客様に選ばれたい美容室でありたい」という、ただその一念です。独立して42年、当たり前のことを当たり前にやっていたから、今があるのだと思います。

「自力本願」という言葉を心に刻み、他人に依存せず、感謝の気持ちと謙虚さを忘れずに取り組んでいくことが大切です。そんな姿勢を若い人たちに伝え、この美容室で成長したスタッフが巣立っていくのを見るのが何よりの生きがいです。

永年和裁技術指導者として和裁士の育成に貢献されています。

高校卒業後、和服の仕立てに携わって、もう50年以上になります。それでも、これでいいという形はありません。和服の仕立ては、一反の反物から始まります。その人の体型に合わせて一着一着作りますので、同じものは一つもありません。それが難しいところであり、しかし、おもしろい点でもあります。

「着物」は、世界に誇れる日本の伝統文化です。私の仕事は、着物を作れ（和裁）、他人に着付けができ、そして自らも着こなす、そんな三拍子揃った人を育てたいです。そうやって伝統文化を引き継いでいこうと思っています。